

事後評価シート

調査研究課題名	ポストコロナにおける移動ニーズに対応したビジネスジェット等の活用に関する調査研究
担 当 者	前研究官 織田直人、前研究官 上埜徳之、主任研究官 可児貴明、研究官 吉原圭佑、主任研究官 南聡一郎、研究調整官 大西里奈
① 当初目標と目標達成度	本調査研究は、定期航空便と比較して、コロナ禍においても旅客需要の変動が比較的小さいという特徴を持つビジネスジェット等の利用環境の改善を図り、地域振興及び地方空港の利用活性化の方策の検討へ寄与する基礎資料を作成することを目的に、令和４年度及び令和５年度の２か年にわたって実施したものである。 令和５年度では、国内の空港周辺地域におけるサービス等の事例について調査及び整理を行った。具体的には、『アシ』（空港からの二次交通）に関して５事例（ヘリコプター３事例、高級送迎車２事例）、『空港』（ビジネスジェット等の受入体制等の状況）に関して４空港、『ウリ』（滞在価値）、『ヤド』（宿泊施設）、『ヒト』（人材）及び『コネ』（売り込み）に関して４地域をそれぞれ選定し、各事項に係る調査の結果を整理した。『アシ』のヘリコプターに関する知見を１)運航等、２)空港及び３)収益性の３つの観点で、『アシ』の高級送迎車に関する知見を１)人材及び２)空港の２つの観点で、『空港』に関する知見を１)利便性及び２)地上支援体制の２つの観点でそれぞれ整理した。また、『ウリ』『ヤド』『ヒト』『コネ』に関する知見もまとめた。 したがって、当初の目標を達成できたと考える。
② 調査研究内容の妥当性	『アシ』の事例の選定においては、ヒアリング調査で有益な内容が得られるように、文献調査、インターネット調査及び聞き取り調査により、『アシ』の実績の把握を行った。 また、『アシ』に関連する『空港』、『アシ』『空港』に関連する地域の『ウリ』『ヤド』『ヒト』『コネ』を調査することで、国内の空港周辺地域におけるサービス等の事例を一体的に整理することができた。 したがって、本調査研究の内容は妥当なものとする。
③ 調査研究の仕組みの妥当性	調査研究を進める過程で、航空分野、観光分野に知見を有する有識者に対してヒアリングを実施し、様々な角度からご意見をいただいた。 したがって、本調査研究の仕組みは妥当なものとする。
④ 成果と活用	調査研究の成果を記した報告書を、当研究所のホームページで広く公表することを予定している。
⑤ その他	当研究所が主催する研究発表会において、令和５年度の成果について報告を行った。